



第 4 号
平成 25 年盛夏
発行
真龍山大雄寺
北見市留辺薬町宮下町 109
TEL 0157-42-2418
FAX 0157-42-2748



大雄寺 上棟式 昭和 4 年 6 月 25 日

早いもので今年もお盆の時期となりました。毎年、「お盆まではまだ時間があるなあ」と安心してしていると、あつという間にお盆、秋のお彼岸を迎える事となり年々、時の速さを感じる次第であります。最近はお彼岸かと思いきや、急に暑くなったりと気候も不安定で、この目まぐるしい時代変化と重なって見えるような気が致します。

今年はこの大雄寺の開教百周年になります。大正二年にこの留辺薬の土地に寺子屋の様な布教所が作られ、布教の傍ら色々な仕事もこなし民衆の方と接しながら信者を増やして、今の大雄寺が出来たと言われています。本堂の什物を見ますと、当時の寄進された方の名前が刻まれており、それを見る度に歴代住職と共に歩まれた檀信徒の皆様の思いがあつてこそ今の大雄寺があるんだと切に感じます。

また折りしも今年には先代方丈の十七回忌の年になります。檀家さんとお話していますと、亡き先代方丈の事をご存知の方も段々、少なくなってきた寂しい反面、時代の移り変わりを感じます。時代の流れと共に仏教の形が変わらざるを得ないのも致し方ない事ですが、「変わってはいけななもの」「伝え残していかねばならないもの」の見極めを大事にして、次の世代へしっかりと繋げていきたいと思えます。

合掌

お寺の動き

檀信徒奉仕活動

お寺ではお盆やお彼岸以外にも成道会（十月十七日）、涅槃会（二月十八日）とお参りが行われています。その際に本堂や庫裡の清掃、またお参り前の食事の用意など、檀信徒皆様にはお手伝いをお願いをしております。今までは限られた方にお声をかけていましたが、これからはすこしずつ声をかける輪を広げていきたいと思っております。世代の違う方同士、楽しい雰囲気の中、行っておりますので気軽に参加下さい。



→ 本堂掃除の風景



↑ 炊事場の準備風景

寄贈 移動式焼香台二式

施主 高橋博（元町）

慶昌院円覚道由居士

為 和室貞芳信女

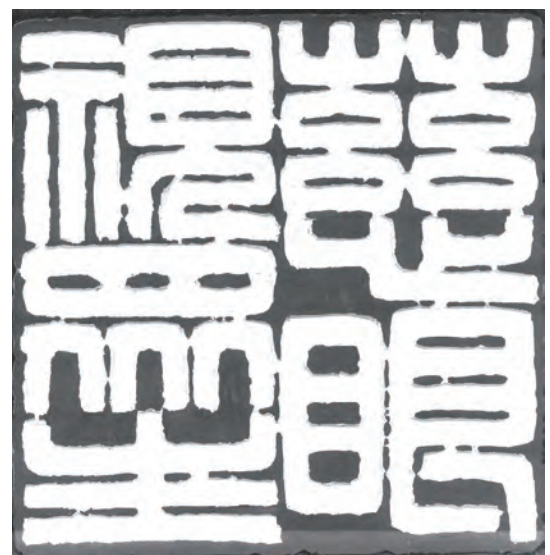
菩提

大雄寺行事予定

- 8 月 16 日 孟蘭盆施食会
新亡施食会 午前 11 時より
一般施食会 午前 11 時半より
- 9 月 23 日 秋彼岸会 午後 1 時より
- 10 月 17 日 成道会 正午 12 時より
・ 11 時頃より昼食が出ます。
・ 御本山布教師様の御話しが御座います。
- 2 月 18 日 御涅槃会 正午 12 時より
・ 11 時頃より昼食が出ます。
・ 御本山布教師様の御話しが御座います。
- 3 月 21 日 春彼岸会 午後 1 時より
又は 20 日

平成二十五年度役員

- | | | |
|-----|------------|------------|
| 住職 | 米田 廣章 | 小熊 正三（旭中央） |
| 副住職 | 米田 憲人 | 荒木 正憲（旭一区） |
| 総代 | 戸田 健司（大富） | 佐々木勝太郎（豊金） |
| 世話人 | 加藤 昌男（旭中央） | 木幡 和清（旭中央） |



「慈眼視衆生」

故 金須紫香・画（北見市）

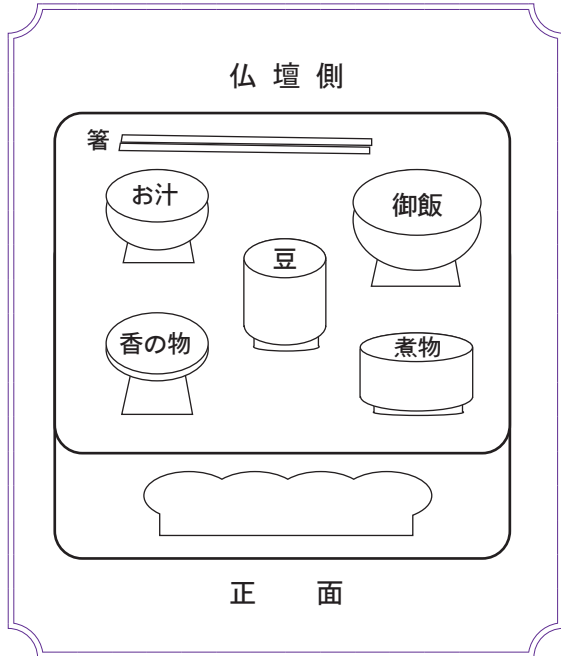
仏事

Q & A

知ってるつもりでも、わからないことが多い仏教用語もあるようです。そこでQ&Aのコーナーを設けました。

Q おりく膳の正しいお供え方はあるのですか？

A おりく膳は正式には御霊供膳おりよくぐぜんと言います。なまっつて今の呼び名となったのだと思います。年忌法要・お盆・お彼岸・月命日など節目に合わせて供えてもらえればと思います。また供える場合は仏さまに供えるので、箸が仏さまの方に置くように供えて下さい。また、故人が好きなものを供えたいのですが、本来は魚、肉、鳥、五辛(にら、らっきょう、ねぎ、にんにく、はじかみ)等避けて調理します。私たちがお参りの時に箸をご飯に立てるのは諸説ありますが、死者に対するものであると意味しているからです。



Q 今度、お墓やお仏壇を新しくするのですが、その際、特別なお参りあるのですか？

A これもよくある質問です。それらを新しくする時には、まず今までのお墓やお仏壇の魂抜き(抜魂)のお参りが必要になります。そしてその後、新しいお墓やお仏壇に魂入れ(入魂)のお参りとなります。それぞれご用意してもらいますのでお寺にお声掛け下さい。

心のたすき

「息子が覚醒させてくれたこと」



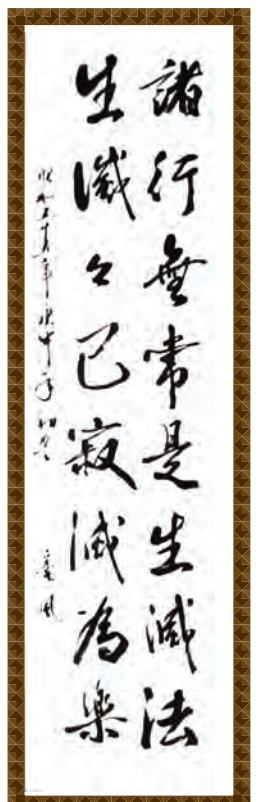
旭一区 荒木 正憲

先日若方丈さんがお参りに来られた時に、「亡き息子さんの思い出など何でも書いて下さい」というご依頼があったので、つれづれなるままに書いてみました。

今年の五月三十日、息子の突然の死を知らされてから十四年目を迎えました。毎年この日を迎えるのは今も尚、辛いものがあります。もちろん妻も同じように辛いのだと思いますが、毎月の命日に息子の好物だったショートケーキや果物を仏壇に沢山お供えしている姿は未だ胸が痛みます。一人息子であった康徳(やすのり)は、高校、大学と札幌で学び、英語も得意で米国のホームステイにも参加して多くの友達と沢山の思い出を作っていました。また卒業後は、大手企業の札幌支店に就職する事が出来、まさしくこれから無限の可能性を持った人生を送ろうとしていました。しかしそんなある日、突然の交通事故によって二十二年の人生は幕を閉じてしまったのです。

十四年前の私は北見市内の会社に勤務しており、朝早くから夜遅くまでいわゆる企業戦士として家庭よりも会社第一の生活をしておりました。ところが突然訪れた息子の死によって気付かされた事は、もっと妻を優しく労い、子供達の事を思いやる慈しむ父であるべきという事でした。人生で最も大切なことを息子に覚醒させてくれたのです。

今は毎朝、妻と共に仏壇の前で般若心経を誦経する時、両親や姉はもちろんの事、息子にも「ありがとう」と感謝の言葉をかけています。若いながらも亡くなった息子を誇りに思い、これからも気付かされた思いを胸に歩んでいきたいと思えます。



上町 鴻上 義雄 書

「諸行無常 是生滅法」

生滅々已 寂滅為楽

「この世に一つとして常住なもの無く、生じたものは必ず滅する。ゆえにこの生滅の世界を抜け出て涅槃寂靜の真理に至るべき」。

お釈迦さまが前世で雪山童子であった時、「諸行無常 是生滅法」の前二句を羅刹の口から聞き、捨身の懇願から後二句「生滅滅已 寂滅為楽」を聞いたという教え。

編集後記

▼ 何とか今年も会報を作る事が出来ました。直前にならないとエンジンがかからないのは悪い癖ですね(笑)。この大雄寺も開教百周年を迎えるという年月が経ちましたから、直さないといけない所も出てきました。総代・役員会で承認の後、皆様にご協力を願う時が来ると思いますが、宜しくお願い致します。

(副住職)